

## 「新方川」最下流部の旧河道

秦野 秀明

### はじめに

「地理院地図（電子国土 WWD）」（1）の「治水地形分類図」（2）には、利根川水系・一級河川「新方川」の最下流部に当たる埼玉県越谷市増林3丁目（新方川・左岸）・同市増森（同川・右岸）・同市増森1丁目（同川・左岸）・同市増森（同川・左岸）にかけて、「旧河道（不明瞭）」が描かれている。

「新方川」の最下流部は、秦野 秀明（二〇二〇）により「遅くとも文政十三年（一八三〇）成立の『新編武蔵風土記稿』の刊行以前には、当時の名称である「千間堀」の流末を延長して、旧・中島村内（現・越谷市中島）の当時の「大落古利根川」に落とされていた」（3）ことが判明しているが、この「旧河道（不明瞭）」の成因及び来歴に関しては未調査であったので、今回の調査による仮説を以下に記載する。

### 一・「空中写真」の判読による仮説

今回取り上げる「旧河道（不明瞭）」の「上流部」は、越谷市増林3丁目「越ヶ谷総合公園」の南付近の「新方川」左岸に沿って南東へ流下し、対岸である同市増森の「新方川」右岸側へ移動して右岸に沿って南東へ流下する。

その「下流部」は、もう一度「新方川」左岸側へ移動し、同市増森1丁目を北東へ流下し、同市増森との境界付近で東南東へ向きを変えて、「大落古利根川」の「旧河道」へ流下・合流するような「河道」として描かれている。

冒頭で記載したように、「新方川」の最下流部は、「遅くとも文政十三年（一八三〇）成立の『新編武蔵風土記稿』の刊行以前には、当時の名称である「千間堀」の流末を延長した」（2）ことが判明しており、その事実は「河道を新たに人工的に開削した」という成因を示している。

そこで、昭和二十二年（一九四七）十月二十三日に撮影された「空中写真」（4）における該当範囲を判読した結果、「旧河道（不明瞭）」の「上流部」として想定した地点付近よりも、「下流部」として想定した地点付近の方が、「旧河道」の幅や規模が「明瞭に大きい」ことが判明した。

ゆえに、当初に筆者が推定した「旧河道（不明瞭）」の「上流部」が「下流部」であり、「旧河道（不明瞭）」の「下流部」が「上流部」であると、改めて推定し直した。

つまり、「大落古利根川」の「旧河道」が現役の「河道」であった時期に、一回または複数回の破堤や越流する事象が発生し、その際に形成された「河道」が、「治水地形分類図」（2）に「旧河道（不明瞭）」として描かれたと推定した。

仮に、この「旧河道（不明瞭）」の「上流部」に、平社定夫（二〇二四）（5）が定義した「クレバススプレー」の存在を認めた場合には、この「旧河道（不明瞭）」は「クレバス流

路」として認めることが可能となる。

## 結びにかえて

今回取り上げた「旧河道（不明瞭）」の「上流部」である「大落古利根川」の「旧河道」右岸部は、「流路」が「西に凸の蛇行部」の「攻撃斜面」に相当する。

その「攻撃斜面」には「旧・増森村」の鎮守の一社であった「増森神社」が鎮座し、「旧・増森村」の鎮守であった時期の名称は「水神社」である（6）。

「水神」に関して、板垣 時夫（二〇二二）（7）には、「県東部地域では、水神や弁財天が多く祀られているが、河川の決壊地点付近には、水神のほかに八大龍王や九頭龍大権現が祀られている」との記載がある。

この示唆に富んだ記載は、「大落古利根川」の「旧河道」が現役の「河道」であった時期に、一回または複数回の破堤や越流する事象が発生し、その際に形成された「河道」が、「治水地形分類図」（2）に「旧河道（不明瞭）」として描かれたと推定した筆者の仮説への有力な証明にも成り得る。

さらに、新井 鎮久（一九七五）（8）には、「高水時の洗堀による曲流部の切断貫流」の分布地として、「増林の増森」の記載があり、筆者の仮説への更なる証明と成り得る。

## 注

(1) <https://maps.gsi.go.jp/>

(2) [https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fc\\_refer.html](https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/fc_refer.html)

(3) 秦野 秀明（二〇一〇）

『越谷市増林地区における流路変遷』『古志賀谷』

第十九号 pp.16-27

<https://koshigayahistory.org/>

200424\_nigatagawa\_h\_hatano.pdf

(4) 「地図・空中写真閲覧サービス」

<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

<https://mapps.gsi.go.jp/contents/Imagedisplay.do?specificationId=216343&isDetail=true>

整理番号 USA・コース番号 R393・写真番号 126

撮影年月日 1947/10/23(昭22)・撮影地域 野田

撮影年月日 1947/10/23(昭22)・撮影地域 野田

(5) 平社 定夫（二〇二四）

『春日部市史 自然誌編』春日部市 pp.13-15

(6) 文政十三年（一八三〇）成立

（一九六三）『新編武蔵風土記稿』【第三期】第十卷

雄山閣 pp.177

(7) 板垣 時夫（二〇二二）

『水と暮しの信仰―川を巡る民俗文化』埼玉新聞社

p.26

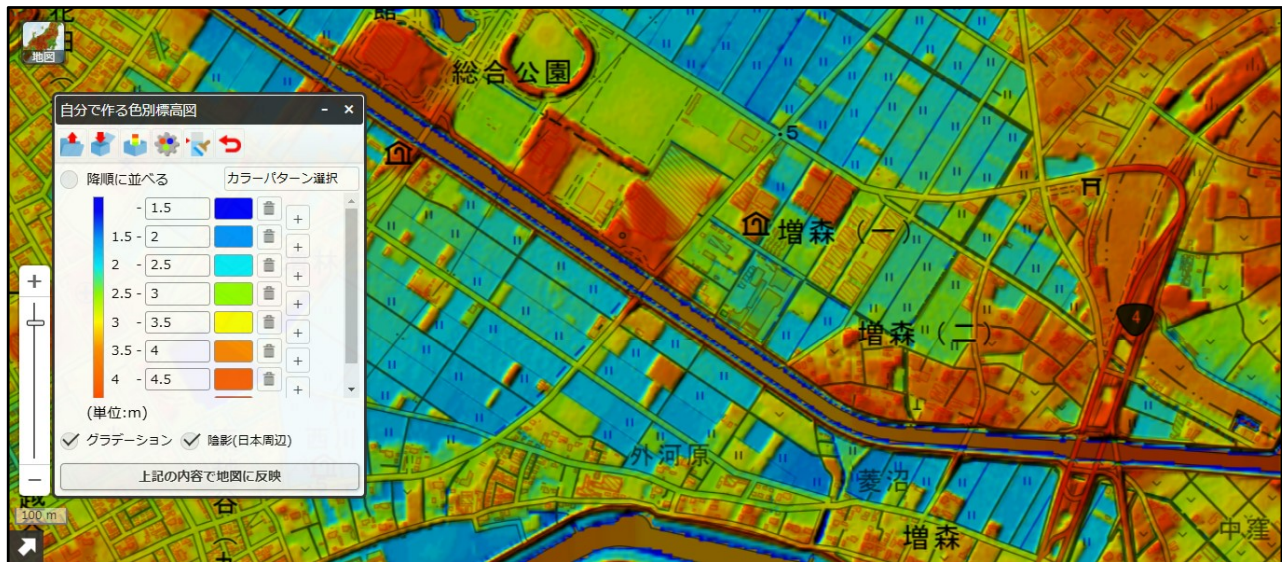
(8) 新井 鎮久（一九七五）

『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市役所 p.51

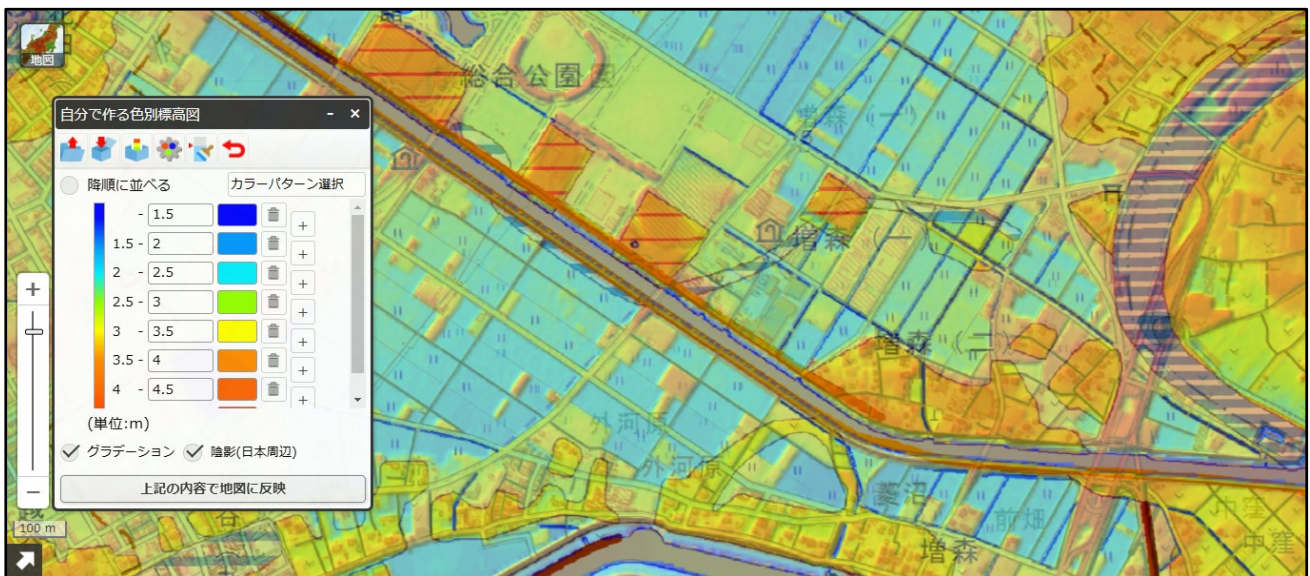




↑ 出典：「地理院地図(電子国土 Web)」  
「標準地図」 + 「治水地形分類図」を引用



↑ 出典：「地理院地図(電子国土 Web)」  
「標準地図」 + 「自分で作る色別標高図」を引用



↑ 出典：「地理院地図(電子国土 Web)」  
「標準地図」 + 「治水地形分類図」 + 「自分で作る色別標高図」を引用





↑ 出典「地図・空中写真閲覧サービス」 ↓  
整理番号 USA・コース番号 R393・写真番号 126  
撮影年月日 1947/10/23(昭 22)・撮影地域 野田  
を部分引用及び加筆して部分引用



「旧河道（不明瞭）」 ↓

← 増森(水)神社